

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	東京大学	申請大学長名	濱田 純一
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	松本 洋一郎
整理番号	P01	プログラムコーディネーター名	城山 英明
プログラム名	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

#### 【プログラムの目的】

本プログラムでは、高い倫理観のもとに、社会が直面する課題を的確かつ早期に捉え、これに対して多様な専門知識を統合し、社会的リソースを組織化して解決に導くことのできるリーダー人材（近い将来、「世界や国のドライバーズシート」を託せる高度博士人材）を養成することを目的とする。

高度博士人材に必要な基本的な素養として、(a)課題を発見し解決する力、(b)幅広い教養と高い倫理観、(c)競争を勝ち抜く強い意志、(d)社会や市場ニーズを感じ取る知性と研ぎ澄まされた感性、(e)自ら学ぼうとする強い意志と旺盛な好奇心、(f)訓練された高いコミュニケーション能力が挙げられる。

本プログラムでは、拠り所となる尖った専門性を一つ以上持つことに加え、(1)水平展開力基盤（分野横断的かつ論理的な文理双方の確固とした知識基盤）、(2)設計力（アジェンダセッティングやコンセプト設計能力）、(3)グローバル思考と公共精神に裏打ちされた行動力（先進国のみならず発展途上国をも対象とした大胆なグローバルな発想、課題解決実行をマネジメントできるプロジェクトマネジメント能力、英語をベースとする訓練されたコミュニケーション能力、多様な人材を率いる人間性と決断力を持ったリーダーシップ）の3要素を備えた人材を育成することとする。

#### 【大学の改革構想との関連】

東京大学は、教育目的として、国際的な広い視野を有し、強靱な開拓者精神を持ちつつ、公共的な責務を自ら考え、行動するタフな人間を育成することを掲げてきた。本プログラムで中核となる公共政策大学院は、東京大学の行動シナリオにおける重点テーマである「グローバル・キャンパスの形成」と「社会連携の展開と挑戦」、「部局横断型研究の活性化」という目的と合致したプログラム実践の実績を有している。こうした実績の基盤の上に、本プログラムでは、政治学、経済学、工学、農学、生命科学、医学、情報学、新領域等の部局が連携して文理横断型の研究教育を実践することで、東京大学が目指すタフな人間の育成に貢献する。

## 2. プログラムの進捗状況

平成26年度は、9研究科75名の学生を対象に、プログラムの教育を実践した。学生には8か国からの留学生23名や、社会人および社会人経験者19名が含まれ、「人材のるつぼ」という本プログラムの趣旨を満たしている。

教育内容としては、分野横断型プログラムの開発を進めている。第1段階の「俯瞰コースワーク」では、本プログラム独自の授業に加えて、政治学、経済学、工学、農学、生命科学、医学、情報学、新領域等の各分野から「グローバル社会・政策コア」および「先端科学技術コア」の科目を設定して分野横断的な教育を行った。その上で、具体的な社会的課題の発掘・同定、課題解決のための具体的プロジェクトの企画・立ち上げ・運営・完成・評価を経験して能力を磨く「課題解決力コア」を設置し、実践を見据えた分野横断的グループワークでの教育を実施した。第2段階の「課題研究ワークショップ」としては、3月に2泊3日の合宿形式で問題意識を深掘し、研究対象とする社会的課題の絞り込みや研究計画の検討を行った。第3段階の「国際プロジェクト実習」は、3名がすでに終えたほか、7名の博士後期課程の学生が準備中であり、来年度早期の実施を控えている。

外部との協力体制としては、企業、行政およびNPOの代表と本プログラムの教員から構成される産学官アフィリエイト委員会を設置し、委員会における議論に加えて、委員会メンバーにもコースワークに参加してもらうことで、産業界等との連携を進めている。また、第1回国際諮問委員会も開催した。なお、平成26年度は、各専門分野の研究者と政策実務家や企業実務家との幅広いネットワークに基づく共同のためのプラットフォームセミナーを44回実施した。

プログラムの充実と並行して教員の充実も進めており、外国人教員を含む特任教員等を増員している。